



## NPO 戸田日露交流協会設立式典

水口 淳

平成28年3月27日(日)NPO戸田日露交流協会設立式典を開催した。旧戸田村(沼津市戸田)とロシアとの関係は、1852年10月にフリゲート艦「バルラダ号」がクロンシタット港を出発し、1853年8月、ロシア艦隊が長崎に入港したことから始まる。

10カ月の航海でやっと日本にきた海軍中将エフフィーミー・ブチャーチン指揮官は9月9日長崎奉行に公式会談を申し込み、ロシア皇帝の書簡を江戸へ送られたが、3カ月の間返事がなかった。ブチャーチンは長崎を離れ、日本側には近いうちに戻ることを伝えて上海に向け出港した。

日本側から、ロシアは隣国であるので格別の取り扱いを保証すると承認状をブチャーチンが受け取ると、ブチャーチンは、ロシア極東インペラートルスキー港に入港した。そこで、フリゲート艦「バルラダ号」から新造船の「ディアナ号」に乗り換えて、2国間の外交・貿易関係の会談を継続するため出港した。1854年11月22日「ディアナ号」は下田に入港した。そこで、ブチャーチンは、日本の全権委任者を待ち受ける。

しかし、下田港碇泊中に1854年12月13日の安政東海地震の大津波に遭遇し、またも、強風に見舞われ富士市沖で沈没した。しかし、富士の漁師や住民が500余人の人を1人も死人を出さずに救助した。その後、陸路で戸田村に来た。

ブチャーチン提督は幕府に、帰国する代船の建造を要望した。幕府は戸田村で造船の許可を出した。設計に2カ月を要し、竣工から完成までには100日程度かかった。ブチャーチン提督はこの船にヘダ号と命名した。ヘダ号はブチャーチン提督他



右：カツェバン・ニコライ司祭

50名と共に帰国した。昭和44年には、戸田村でヘダ号建造に関する、戸田造船郷土資料博物館の建設を行うについて、当時のソビエト連邦より建設資金にと500万円寄付をいただいた。また、45年の大阪万国博覧会のロシア館に展示してあったディアナ号の模型とステンドグラスを博物館に寄贈した。160年前に発生したディアナ号沈没事件から戸田とロシアの関係が現在も友好に続いている。

設立式典には、在日ロシア大使館特命全権大使アフアナシエフご夫妻

のご列席を賜った。在日ロシア大使による戸田村(沼津市戸田)公式訪問は実に40数年ぶりのことになる。当日は、ヘダ号建造中に戸田で亡くなった2名のロシア人を祀っている宝泉寺にて供養法要を行った。宝泉寺には、ロシア正教日本会長司祭カツェバン・ニコライ様に初めて出席していただき、日本の仏教とロシア正教の祈祷を同時に行った。この場面は何とも言葉に出して伝えたら良いのかわからないほど感動した。総会式典には、アフアナシエフ大使様、外務省欧州局林肇局長、NPO日露交流協会森敏光、江守元彦副会長、日本対外文化協会渡邊隆司事務局長、NPO日本・ロシア協会杉坂太郎下田支部長、地元の国会、県会議員にご挨拶をいただいた。

また、当協会より8名の皆様に出席をいただき総会を盛り上げていただき、おかげで、すべての行事が盛会裏に終了することが出来た。皆様のご協力に感謝申し上げます。

・(NPO戸田日露交流協会理事長・NPO日露交流協会常任理事)